

授業科目

国際保健医療学演習II

担当教員名 瀧口 徹	対象学年	1・2	対象学科	保健学・健康科学・社会福祉学・医療情報
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	4	時間数	60

授業の概要

開発途上国の保健・医療・福祉等の状況の時系列的な推移（変遷）を調べ、近未来を予測することにより、当該国民の健康寿命、ADLおよびQOLに重大なリスクが存在するかどうかを判定し、リスク軽減のための行政的な介入シミュレーションを行う。

授業の目的

JICA青年海外協力隊の一般的な業務は、1) 開発途上国に2年間赴任、2) 資格等に基づく特定のプロジェクトに従事、である。本演習IIでは、まずインターネット検索等により赴任国の保健・医療・福祉全般の現状を俯瞰し、自身の専門性に拘らず国家的な対策で緊急性の高い問題が何かを探る。この過程を「鳥の目」という。次に、この緊急性の高いテーマの原因と対策を考え、その中から「草の根」的な視点で有効な対策を構築（シミュレーション）する。この演習過程を通して国際貢献の視点の柔軟性と拡大を図ることを目的とする。

学習目標

1. 開発途上国の保健・医療・福祉の時系列的な推移を表す指標を選定できる
2. 上記の時系列的な推移のデータを収集できる
3. 時系列的な解析ができる
4. 近未来の予測ができる
5. リスク軽減（改善）のための行政的介入シミュレーションモデルを作成できる

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	オリエンテーション		瀧口 徹
4-7	適切指標の選定と事例研究	保健・医療・福祉の時系列変化を表す国際標準指標についてディスカッションし選定する	瀧口 徹
8-13	データ収集（保健・医療・福祉のいずれか1つ）自分の専門外の分野で赴任国の健康や福祉を著しく阻害しているテーマが望ましい。「鳥の目」によるテーマ選定。	赴任している開発途上国でデータ収集を行う。webでのデータ収集可	瀧口 徹
14-23	データ解析、介入シミュレーションモデルを作成（国家的プロジェクト+「草の根」的対応をミックスさせる）、レポート作成	トレンド分析を行う	瀧口 徹
24-29	レポート報告とディスカッション	リスクの予測の精度と介入の医学的、医療経済的妥当性について議論	瀧口 徹
30	新潟医療福祉学会へのポスター発表（毎年9月下旬）	ポスターセッション用のポスター作成 指導教員への提出はA3カラーのポスター形式	瀧口 徹

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	疫学マニュアル 改訂6版	柳川 洋、坂田清美、大木いずみ	南山堂	2003年	4,200円+税	
	シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮、久道 茂、辻 一郎	南山堂	2011年	2,400円+税	
	疫学辞典 第5版	Miquel Porta、日本疫学会(編)	(財)日本公衆衛生協会	2010年	3,500円+税	
	SPSS辞典 BASE編	小野寺孝義、山本嘉一郎	ナカニシヤ出版	2004年	3,500円+税	
	統計学：Rを用いた入門書	Michael J. Crawley、野間口謙太郎(訳)、菊池泰樹(訳)	共立出版	2008年	4,300円+税	
その他の資料						

評価方法

データ項目選定の妥当性、解析の妥当性、ディスカッションへの参加度と質問の質、新潟医療福祉学会でのポスター発表（必須）
ポスターの先例と演習要領は下記サイトで閲覧、ダウンロード可

<https://drive.google.com/drive/folders/0B3PYdxQv0EWiSzZOa05TZkw5cXc?usp=sharing>

履修上の留意点

- 1.履修曜日時間、場所：人数によりその年毎に個別に調整
 - 2.青年海外協力隊等プログラムのみ履修可能（必修）
- 赴任予定もしくは赴任した国の抱えている保健・医療・福祉上の喫緊の課題で、かつ自分の職種との関連が薄いテーマが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

瀧口徹： IA棟5階 511
TEL/FAX 025-257-4535 E-mail: takiguchi@nuhw.ac.jp
対応可能曜日 時間帯 水曜を除くweek day am9:30-pm5:30